

中日新聞
「リンクト」LINKED
PRESENTS
病院を !
I KNOW! HOSPITAL AND MEDICAL
知ろう

愛知県厚生農業協同組合連合会
安城更生病院

企画制作 中日新聞広告局 編集 プロジェクトリンクト事務局

人と人の繋がりが
医療人としての
「心の礎」を築く。



HERE! e-LINKED
www.project-linked.jp/

多職種みんなので、研修医を育てる。 安城更生病院に伝統的に受け継がれる教育体制。

若い医師たちが集まる病院は、いつも明るく活気に満ちている。安城更生病院も、そんなアクティブな雰囲気につつまれた病院だ。有名市中病院が並ぶ東海地区にあつて、同院は例年、初期研修医の募集定員を上回る希望者数が集まる。多くの医学生から「ここで研修したい」と思われる理由はどこにあるのだろうか。研修医や、研修を支える医師、教育研修センターのメンバーに話を聞いた。

多職種の先輩たちに
支えられることを
実感する2年間。

01

毎年、20名程度の初期研修医が入職する安城更生病院。平成25年度に入職した一人、奥村暢将医師は、いろいろな病院を見学したなかで「診断能力の高さと教育熱心さ」に惹かれ、入職したという。ほぼ1年間の研修を過ごしてきて、「ひたすら

い」と考えて、入職。2年間のプログラムをほぼ終えて、「救急外来の患者さんも多く、診療科も充実。医師としての基本的な知識や技術を修得でき、とても有意義でした」と話し、「ここまで成長できたのは、上の先生方はもちろん、コメディカルスタッフの方々のサポートのおかげ

です」と続けた。「たとえば、微生物検査室の技師さんは非常に専門性が高く、僕が興味のある感染症について詳しく教えてくれるし、放射線の技師さんはこれまたフコ意識が高く、画像を読んでの確に指摘してくれます。看護師さんも含め、そういう多職種の方々が、未熟な僕ら

をサポートするために積極的に動いてくださいます」と語る。奥村医師も、同意見だ。「薬の処方について薬剤師さんがさりげなくフォローしてくれたり、看護師さんが手際良く処置などをしてくださつて、とてもありがたいと感謝しています」。

教育研修センターは、
研修医の「保健室」。

02

同院で充実した研修の日々を過ごす研修医たち。だが、彼らも当然、壁にぶつかることがある。そんなときにふらりと訪れるのが、「教育研修センター」だという。教育研修センターは「人材は組織の財産」という考えのもと、医師をはじめ、全



職員がたが、彼らも当然、壁にぶつかることがある。そんなときにふらりと訪れるのが、「教育研修センター」だという。教育研修センターは「人材は組織の財産」という考えのもと、医師をはじめ、全

職員の教育研修活動を支援する部門だ。



同センターの立ち上げにも参加した三井千鶴は、「研修医の皆さんは、レポート提出など用事のあるときはもちろん、相談ごとでもよく立ち寄られます」と話す。たとえば、自分に対する不甲斐なさ、上級医や指導医に対する不満や希望など、もや

もやした思いや悩みを打ち明けるといふ。そんな研修医たちを三井たちはいつでも温かく迎え、お菓子をすすめたり、和みの雰囲気を作る。「勤務前に来られる人もいますので、朝早くから部屋を開けています」と三井は笑顔で語る。居心地のいい雰囲気

のせいか、「用事もないうに、ついつい足が向く」と小塩医師も言う。まさに、医療業務の緊張感の合間にほっと息抜きして、ほろりと本音も語れるへ学校の保健室として機能しているようだ。

「Webサイト(病院情報局)で、毎年発表されている初期臨床研修人気病院ランキング。これによると、安城更生病院は愛知県下で常に上位にランクされ、とくに平成25年度は(第2位)に輝いた。それだけこの病院で学びたいと希望する医学生が多い、東海地域屈指の教育病院である。」

「人と人の繋がり」は安城更生病院に受け継がれる伝統。

03

種と繋げ、外部の先生とも結びつけるハイブリッドのような役割を果たしているといえるだろう。

「教育研修センターのような存在があつて、今の研修医はつらやましい」と語るのは、平成7年に同院で研修を受けた杉浦真医師(在宅診療部長)だ。「当時は、教育研修センターのような、ここまでしっかりしたサポート組織はなかったですからね。どちらかといえば、(根性で頑張れという感じで…)。でも、上の人が下の人を教えて一緒に育っていく、多職種みんなで人を育てていく、という雰囲気は、昔と全然変わっていないですね」。

杉浦医師は、医師としての



C O L U M N

● 同院が医師教育に熱心に取り組み出した歴史は古く、昭和43年にさかのぼる。その当時から複数診療科研修を開始し、昭和49年からは現在の研修制度の原型ともいえるローテーション研修(複数の診療科を順番に研修していく)を始めている。こうした歴史から、どの診療科も研修医を積極的に受け入れようという懐の深さを持つ。全診療科に、臨床研修指導医講習会を修了した卒業7年以上の医師が配置されており、その指導医を中心に、コメディカルスタッフも積極的に協力して、研修医教育に情熱を傾けている。

中日新聞
「リンクト」
LINKED PRESENTS
病院を
知ろう
I KNOW! HOSPITAL AND MEDICAL

か。「それは多少、感じることはあります。たとえば、電子カルテで常に情報共有できていますが、カルテだけでは伝えきれないニュアンスなど、もつとチームで共有していきたい。良い医療は人の繋がりがあってこそ実現する、という当院の精神が途切れないように、そこは常に意識していかないといけないと考えています」。

そう語る杉浦医師は今、研修医に地域との繋がりを経験させようとしている。病棟で一緒に入院患者を診療するのと同じに、在宅診療の現場にも積極的に研修医を連れ出しているのだ。在宅では患者や家族との関係づくりが一層強く求められる。「現場を見て、何か気づいて学んでほしい」という杉浦医師の思いは、研修医の心しっっかり届いているに違いない。

研修医は病院の宝。病院長のメッセージが教育の核となっている。

04

平成21年、同院に「教育研修センター」が作られたのも、実は、杉浦医師が語る「人と人の繋がりと」という伝統を受け継いでい



く狙いが大きかった。三浦センター長は、そのあたりの経緯について、こう説明する。「職員が繋がってこそ、人の命を救える」ということを、当院の病院長が歴代ずっと受け継いできた。それが、新築移転後、職員が一気に増えて薄まってしまうことに、病院長をはじめ皆が危機感を感じたんだと思います」。

同院の伝統を受け継ぎ、職員同士をつまぐ繋げるのが、教育研修センターの使命。三浦センター長はそう考えて、職員個々の成長はもちろん、職員間・職種間の交流、信頼関係の構築に力を注ぐ。「病院長から管理職、研修医に至るまで同じ目標に向かうことがまず大前提になります。目標というのは、すなわち当院の理念ですね。その上で、みんなが単に仲良くするのでは

なく、プライドを持つ専門職同士が互いに切磋琢磨し、疑問があれば遠慮なく指摘し、全体のレベルを上げていく。そういう積み重ねが、地域の患者さんに寄与することに繋がるのだと考えています」。

とくに研修医教育については、浦田士郎病院長自らが「研修医は、病院の宝」とメッセージを送り、病院全体で育てる意識づくりを徹底している。そうした手厚いサポートを受けるなかで、研修医たちは知識や技術以上に大切なものに気づくという。「それは、自分一人ではできることは限界がある。この地域の患者さんを守るためには、みんなが協力してやらないとダメだということですね」と、三浦センター長は語る。院内の多職種との連携、さらに

地域の介護・福祉施設との連携を通じて、地域医療は成り立つ。その基本的な連携の精神を学べる環境が同院には用意されているのだ。

最後に三浦センター長は、同院の魅力をこんなふうに表現した。「医師としての心の礎は、最初の2年間でした。心は礎は、当院はへ心を学べる病院だと自信を持って言えますね」。



BACK STAGE

●現代の医療は専門化が進み、臓器別、病態別に診断・治療能力は著しく進化している。その一方で、専門的な知識・技能には長けていても、患者を全身的に診る力に乏しい専門医が増え、問題となっている。なぜなら、超高齢社会の進展に伴い、多臓器にわたる慢性疾患を抱えたり、社会的問題を背景に持つ患者が急増しているからだ。

●これからの時代に必要なのは、多臓器に問題のある患者を総合的・長期的に支えていく医療体制であり、すべての専門医には患者を全人的に診る能力が必要となってくる。そういう視点から見ても、安城更生病院の「チーム医療」のなかで研修医を育てる「教育体制は大変素晴らしいといえるだろう。最初の2年間で「人と人の繋がりの大切さ」を学んだ医師たちが、やがて地域医療の最前線に飛び出し、多職種の医療スタッフを繋ぎ、さらに介護・福祉のスタッフを繋ぎながら、患者を支えていく。そんな理想的な未来予想図が実現していくことを切に願いたい。

企画制作

中日新聞広告局

編集協力

愛知県厚生農業協同組合連合会

安城更生病院

〒446-8602

愛知県安城市安城町東広畔28

TEL 0566-75-2111(代表)

FAX 0566-76-4335

<http://www.kosei.anjo.aichi.jp/>

お問い合わせ

中日新聞広告局広告開発部

TEL 052-221-0694

FAX 052-212-0434

プロジェクトリンク事務局

TEL 052-884-7831

FAX 052-884-7833

<http://www.project-linked.jp/>

中日新聞
「リンク」LINKED
PRESENTS
病院を
知ろう

プロジェクトリンク

検索